

4) 教行寺（富田町6丁目）

蓮如と紅梅を思いうお寺。

富田、寺内町発展の中心部にあたり、現在では周辺の旧家や民家に囲まれコンパクトな境内になっているが500年以上という時代の変遷とともに波乱の歴史を経てきた重みを感じられるお寺である。

安静山と号して真宗大谷派（東本願寺）に属する。1476年（文明8年）頃に本願寺八世蓮如上人の創建と伝えられ、一向宗（浄土真宗）の北摂エリア布教拠点となった。

富田道場として隆盛を極めたが、1532年（天文元年）の一向宗弾圧でほとんどが失われることになる。その後、弾圧を解かれた天文5年に再建され晩年の蓮如は再びこの地に訪れ布教に専念したようだ。

蓮如上人が、親鸞上人が記した「教行信証」をこの寺で書写したことから教行寺と呼ばれるようになった。信心熱い大阪屋仁兵衛が、1843年（嘉永4年）に上人ゆかりの築山紅梅の碑を境内に建てているほか、地元の漢詩人、坂田十松が詠んだ石碑もある。

教行寺の山門を入り、本堂に向うと右側内坂田十松・漢詩の碑があります。

坂田十松（1894-1984）富田町の出身。高井半農に詩を学び、のちに、棚橋石翁に漢学と禅を学ぶ。のち、八木蓑香に「王漁洋調」の詩を学ぶ。後年、数々の漢詩会を結盟し後進を指導する。

著書に「十松百絶」がある。



老幹著花疎影横
 暗香如水暮寒清
 東風弔古教行寺
 月白中庭鶴一聲

坂田十松が富田の風景 10 箇所を詠んだ「富田十勝詩」のうち、この寺にある築山紅梅の詩が石碑となり建っています。
 この梅は、蓮如上人御手植の紅梅と言われています。